シリーズ福祉エッセイ「しあわせづくり、ひとづくり」㉚

誰もが自由にお出かけできるように!

ほほえみグループ
有限会社 三ヶ森タクシー
代表取締役 貞包（さだかね） 健一（けんいち）さん

●夢のお話

「買い物に行きたい」とスマホに話しかけると、10分待つように答えがあり、程なくして玄関に自動運転タクシーが到着している。かつてマンションの駐車場だった所には、今はテニス場ができている。誰も自家用車を持つ必要はなく、しかも誰でも自由にどこにでも移動することができる。数千人いた交通事故死亡者も今は想像すらできない。自分が生きている間に、この夢のような時代がくるだろうかと、よく考えます。

●クルマ依存の社会

20世紀、大衆車が世の中に出回りだしてから、道路や街づくりなど、社会全体がクルマ中心の構造になってきました。就職するにも自動車免許は必須であり、ちょっとした買い物に行くにもクルマは欠かせない社会になりました。便利なものが、いつの間にか無くては生活できないような生活環境を作り出してきました。最近のスマホ普及も、街の公衆電話を無くし、ひと時も欠かせない必需品になってきたのと同様です。

●MaaS（mobility as a service）

いろんな公共交通機関が進化をしようと努力してきましたが、自家用車に勝ることはかなわず、街には相変わらず自家用車が溢れています。最近は、マースと言って、移動をひとつのサービスととらえ、電車・バス・タクシーなどをシームレスにつなぐことで、楽に目的地に行けるような実証実験が繰り広げられています。今のレベル的には、まだ異なる交通手段を一括して検索する程度の段階で、各交通機関が待つことなく繋がったり、月毎定額の料金制が選択できるなど、使いやすいサービスになるにはまだ時間がかかりそうです。クルマの次世代として必需品になったスマホが、クルマ依存症を治してくれるのか、先が楽しみです。

●人のつながり

クルマやスマホは便利ですが、どちらも面と向かった交流を妨げ、日本特有の「おもいやり」が薄れてしまうのではないかと危惧しています。弊社では、高齢者・障害者の方々の日常の生活を支えられるコンシェルジュ的な“ほほえみクラブ”を模索しています。自宅でのちょっと困ったことや、知りたい情報など、対面で関わることでフォローできればと考えています。ほほえみのある“おでかけ”を目指したいですね。

「北九州市内の企業における社会貢献活動に関するアンケート」

調査報告書 概要

1. 調査目的

このアンケート調査は、これからの地域共生社会の実現に向けた取り組みを推進していくため、今後活動が期待される企業を対象に、社会貢献活動の取り組み状況や活動に取り組むうえでの課題などを調査し、活動に取り組みやすい環境づくりやその支援について検討するための情報を得ることを目的として実施しました。

2. 調査概要

郵送アンケート調査

- 基　準　日　平成31年4月1日
- 調 査 機 関　令和元年11月1日～11月29日
- 調査依頼先　北九州商工会議所の会員企業を中心とした2,062社
- 回　　収　回答410社／回答率19.9%

【主な調査項目】

(1) 社会貢献活動の取り組みの有無について
(2) 社会貢献活動に関する取り組みの内容や推進体制について
(3) 従業員へのボランティア活動支援の取り組みについて
(4) 今後取り組むことができそうな社会貢献活動について
(5) 社会貢献活動や従業員のボランティア活動を促進させるために必要と思われる支援や環境整備について
(6) 企業の基本情報について

3. 調査結果概要

(1) 企業の概況

回答いただいた企業の業種は、「建設業」が23.7%で最も割合が高く、2番目に「製造業」が18.0%でした。

従業員数では、「6～20人」が35.4%と最も割合が高く、資本金では、「1,000万円以上～3,000万円未満」が39.5%と最も割合が高いという結果でした。

(2) 現在の取り組み状況

「現在取り組んでいる」が52.7%と最も割合が高く、2番目に「今後も取り組む予定がない」が27.6%、3番目に「現在取り組んでいないが、今後取り組む予定」が14.4%でした。（図表1参照）

(3) 活動分野

現在取り組んでいる活動は、「地域のイベント」が46.5%と最も割合が高く、2番目に「環境・自然保護」が34.5%、3番目に「まちづくり」が26.9%、4番目に「災害・救援活動」が26.2%でした。

現在の取り組みの有無に関係なく、今後取り組みが可能と回答があった項目は、いずれも災害発生時で、「支援のための義援金・支援金の寄付」が37.9%と最も割合が高く、2番目に「所有している場所、拠点の貸出・提供」が27.6%でした。（図表2参照）

4. 本会における今後の方向性

(1)「企業の社会貢献取り組み参加」へのきっかけづくり

今回の調査では、約47%の企業でまだ取り組めていないという結果でした。社会貢献活動の取り組みを進めるにあたり、まず身近に感じられるもので自社が得意とする分野から進めて行くという考え方が、活動への第一歩につながるのではないかと考えます。

今後、本会が進めるセミナーや広報紙等の中でもこういった取り組みへのきっかけや、動機づけとして、様々な取り組み事例を紹介しながら、丁寧にお伝えしていくことを検討します。（図表3参照）

(2)「企業の社会貢献活動促進」のための仕組みづくり

本会では、今回の調査結果を踏まえ、企業の社会貢献活動促進のための取り組みとして、下記のように項目を整理することで、今後の関わりについて検討します。

【社会貢献活動促進のための取り組み】

① 企業や地域からのニーズを集約

本会が窓口となり活動先を探している企業や、支援を求めている地域などの情報を集約し、対応の検討を行います。

② 相談支援・コーディネート（マッチング）

企業からの相談に応じ、地域ニーズなどの情報提供や活動を一緒に考え、地域、福祉団体、NPOなどとの連携や協働へのコーディネートを実施します。

③ 企業・関係者間の連携促進

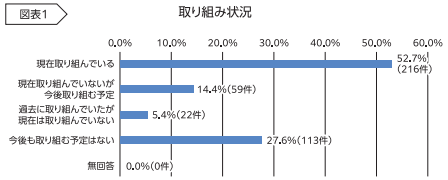
本会で実施するセミナーなどを活用し、企業・関係者間の情報の場を提供します。

④ 社会貢献活動の広報支援

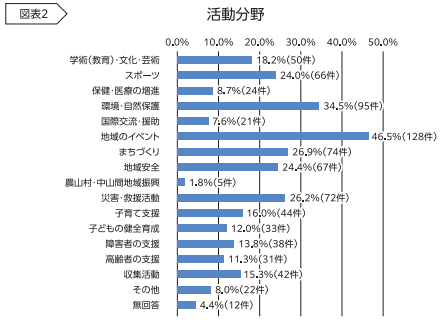
広報紙により活動を紹介します。継続される貢献活動への表彰制度等も検討します。

企業の社会貢献活動を進めるにあたり、これらの項目が、それぞれ仕組みとなって機能しあうことで活動を活発化させ、そのことが企業と地域の相互利益となるよう、本会と企業の連携をさらに進めていく必要があります。（図表4参照）

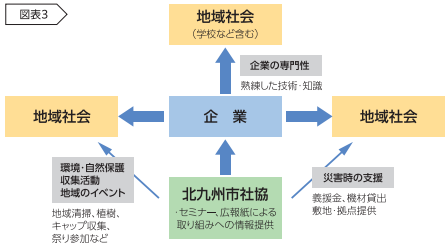
図表1



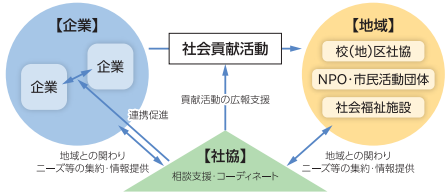
図表2



図表3



図表4



ボランティア大学校では、地域共生社会実現の一助として、今後も定期的にアンケート調査を実施し、これからの方向性を探りながら、企業の社会貢献活動に取り組みやすい社会環境づくりや支援について調査、研究してまいります。